

# 平成 26 年度 発達障害医学セミナー

「震災後の子どもの変化 ―震災から 4 年を経て―」



【日時】2015 年 2 月 14 日（土）～15 日（日）

【場所】福島学院大学 本館 4 階 42 番教室（福島県福島市宮代乳児池 1-1）

【参加者】52 名

【コーディネーター】内山 登紀夫（福島大学大学院人間発達文化研究科）

【主催】公益社団法人 日本発達障害連盟

## ■ プログラム

---

(敬称略)

2月14日(土) 10:00-17:00

外部からの支援

安達 潤 (北海道教育大学旭川校特別支援分野)

震災後の発達障害への行政対応

熊坂 和美 (福島県会津児童相談所)

震災と非行

柘屋 二郎 (福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室)

原子力災害が福島で生活する幼児・児童と保護者に与えた心理的影響

筒井 雄二 (福島大学 共生システム理工学類・災害心研究所)

子どものメンタルヘルス支援事業推進室の活動から

野村 昂樹 (福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室)

2月15日(日) 9:00-12:20

トラウマの治療

八木 淳子 (岩手医科大学神経精神科学講座)

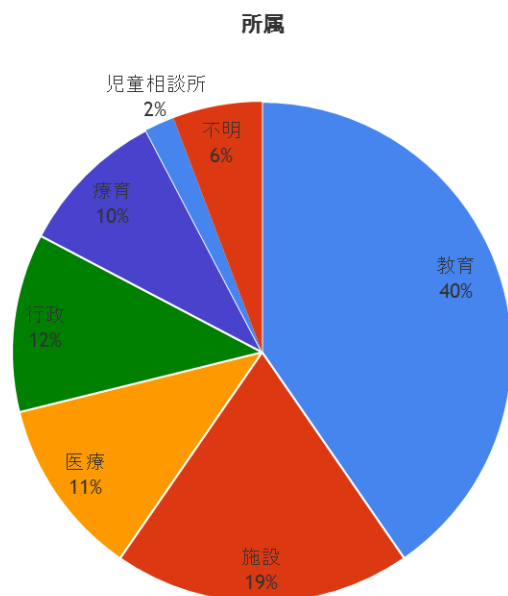
福島県における乳幼児健診の変化

内山 登紀夫 (福島大学大学院人間発達文化研究科)

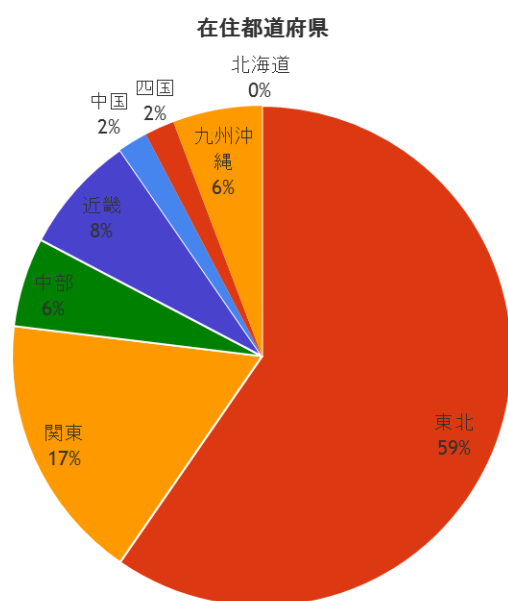
## ■ 参加者アンケート（回答 35 名）

---

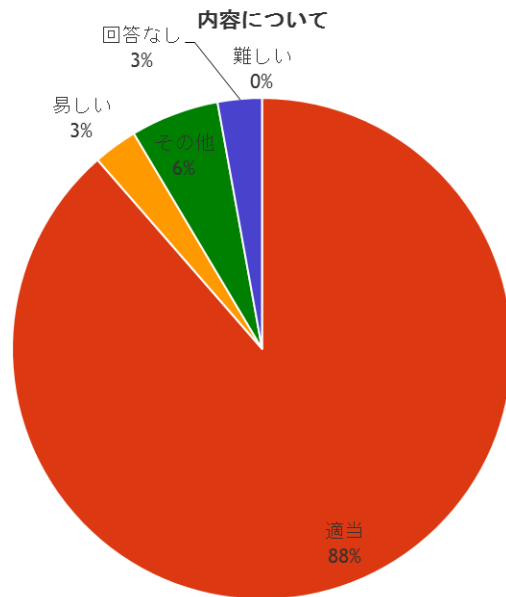
### ■ 所属



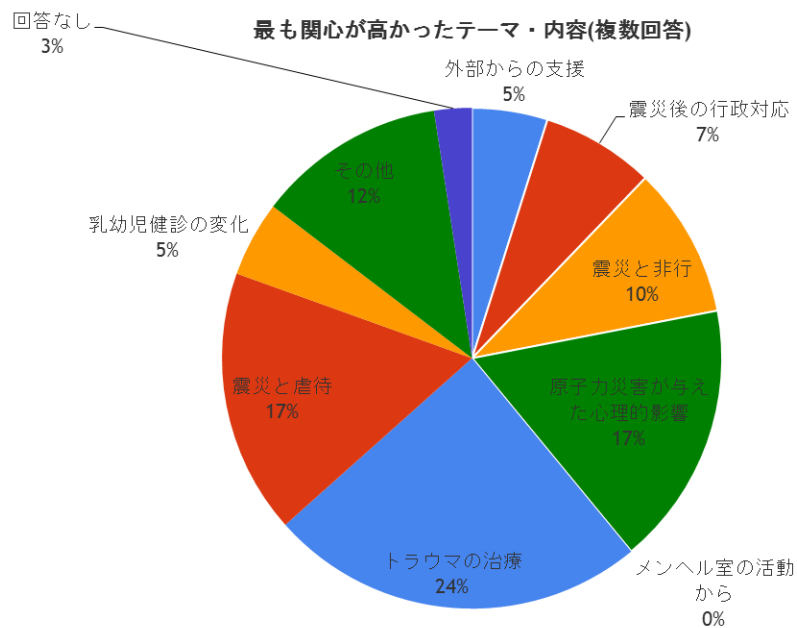
### ■ 在住都道府県



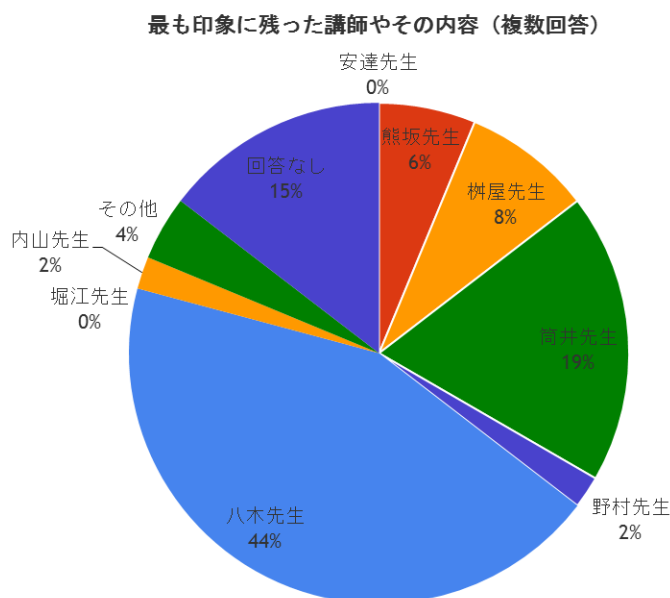
## ■ 内容について（難易度）



## ■ 最も関心が高かったテーマ



## ■ 最も印象に残った講師



## ■ 参加者の皆様からの声

「濃い内容。実際に汗を流された先生方の報告で迫力がありました。」

「原子力災害の心理的影響について、基礎研究のデータの積み上げが今後の教育的取組、行政対応に大きく影響すると思いました。」

「これまで日本が経験したことのない長期にわたる母子支援をしていかなければならないことがよくわかった。同時にどう対策をしていけば良いのかということも未知であることへの不安なども感じました。」

「震災時その後の様子をきくことができ、私にできる支援はないのか考える機会が持てました。」

「トラウマの治療について概要がわかりやすかった。困難を克服、乗り越えた子どもの語りは感動的でした。」

「普段思っていたことがデータとして裏づけがありとてもよかったです。今後の研究に期待します。」

「どの講座も分かりやすくてたくさんの内容を教えてくださいました。医療関係の先生のお話は大変参考になります。私達でも分かるよう話していただくので、とてもよかったです。」

## ■ 最後に

当日急なプログラム変更があり、ご参加いただきました皆様にご迷惑をおかけしましたこと、改めてお詫び申し上げます。ご参加、ご協力いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

どの講義もいろいろな立場から支援に関わっている講師による専門性の高い最新の研究、臨床の新たな知見を含み、震災が子ども達にどのような影響を与えたのかを理解できたセミナーとなりました。

なお、本セミナーの講演の内容は、診断と治療社より発行される「発達障害医学の進歩 27」に収録されます。